

一

問一 A 風潮 B 白熱 C 勢い

問二 人を傷つける可能性のあることを発すること、書くことの行為にとまどい、自分の発することは人が深く傷つける危険性に怯えている。

問三 ネットの普及で世界の情報にアクセスでき、遠い国の人たちと話ができると、一つの意見や考えに統一していく方向になり、本来バラバラだからこそのおもしろさや自由がなくなり、ときに悪い感情に流れやすくなるといった状況を危惧しているから。

問四 ③ 頭でリスクを考えて慎重になるよりまず行動を起こすことの大切さ
④ 世の中の動きに流されず、納得いくまで考え続けていくことの大切さ

問五 ことばはペストのように人に感染し害する怖さを実感しつつも、それでも言葉を使って表現していかうとする点、多様性を抱えたままを受け入れる世界を望み、それを言葉で表現することで既存の価値観に対し、別の視座を開いて見せる点。

二

問一 A 思案 B 歩調 C 不動産 D 表札 E 難しい

問二 ア芽 イ計算

問三 自分のきらいな犬や猫の飼育をしているという理由だけでマンションの前に夜こっそり生ゴミをすてたり、カイロプラクティックの悪口を書いた手紙を近所に配ったりしたこと。

問四 自分が良い人だと思いう行為は、相手の気持ちや立場によっては、知らず傷つけたり不快にさせたり重荷に思われたりすることもあると気づき、人は「いい人間」「悪い人間」とカテゴライズして考えることはできない存在であると思えたから。

問五 妹の羽美が人の住居前に生ゴミを捨てたり施設の悪口を広めたりする今井さんの好意と目の前の今井さんの様子とのギャップにとまどいながらも反感をもっていたため、行為も人間も善悪できつちりと分けられるものではなく今井さんも孤独ゆえに冷静な判断力を失って悪いことをした可能性を、自分の失敗した過去の体験を通じて伝えることで、妹の悩みに寄りそおうとしたから。